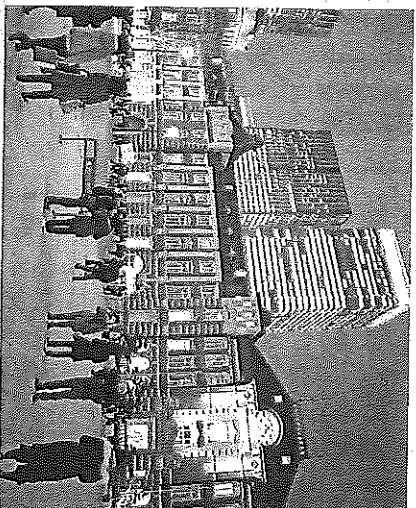


BOOKS



東京駅丸の内駅前広場が完成
(広場で記念撮影する人々)

書店だより

▷鶴岡真弓さん×鏡リュウイさんトークイベント19時、八重洲ブックセンター本店=東京都中央区『カルト 再生の思想(ちくま新書)』刊行記念。アイルランパー日本外務省創立60周年記念。ケトヨローツツバ、日本までを引っかける季節祭』について阿氏が語る。参加費500円。定員先着50人
▷北野新太さん×中村太地さんトークショー「棋士として生きる」といし」(28日19時、八重洲ブックセンター)

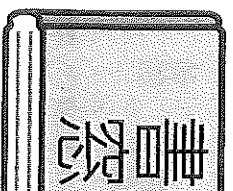
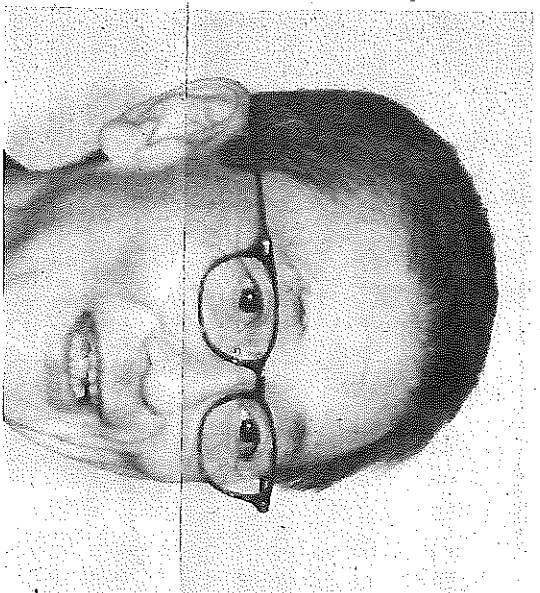
『インベーターたちの日本史』

時代

てきたのは変化への対応だと論じていた。黒船来航から始まった数々の困難を研究すると、歴史上の人物は政治経済上の問題に対して『創造的良心』をすることで、対応してきたと分かっていた。日本人は元来、クリエーティブな人が多い。歴史を量置ことは、自分の自信につながる考えた」
「創造的な反応ができたのはなぜだろうか。」「情報感受性が要因の一つになる。長崎町年寄を務め、西洋砲術家だった高島秋帆は、アヘン戦争勃発の風説書を1842年に知ると、オランダ商館などから情報を収集し、開戦の事象を綿密に調査した。事の重大性を知らぬ高島は上申書を送り、絶対に諸外国と交戦してはいけいなく主張した。砲術家だった高島の意見は、意外にも武力でない『和平開国通商』だったのだ。当時の人々にとって、開国策の対処方法は既知のものではない。世界に開かれた情報感受性と学びの姿勢が創造的対応能力を醸成した」
「創造的反応は個人で起すものでしょうか。それとも組織で生まれるものですか。」「基本的には個人だと考える。日本の大財閥の三井と三菱の出自は全く違う。三井は江戸の豪商。一方、三菱は土佐藩の下級武士の若崎弥太郎が創業で、18

又を任じたという点で共通している。人・モノ・金・情報を一斉に効に利用するためのシステムが財閥だっただけで、財閥形成は結果であって原因ではない」
「現代の我々、日本人はクリエーティブと言えてしまうか。」「もちろん、現代でも創造的反応により道を切り開いた例は多くある。全日本空輸(ANA)は国際線に乗り出した時、フジントン便とハリ便と2種類の便しかなかった。このころ、長崎町年寄を務め、西洋砲術家だった高島秋帆は、アヘン戦争勃発の風説書を1842年に知ると、オランダ商館などから情報を行くサービスだった。日本航空(ANA)も同様のサービスを考えたが、路線が多すぎて対応できなかった。弱点となった路線の少なきを逆手に取ったクリエーティブな戦略だ」
「創造的反応を阻害する要因は何がありますか。」「不必要な規制の存在だろう。規制緩和は新規参入を促すだけではない。既存企業は負けないように、より良いサービスをしたと提供できるかを考えるようになのである。攻められるのを守っているのではなく、攻め返すことが必要になる。競争が起きる環境をつくるために、規制緩和は大切だ。日本人は簡単に負けない。日本人を信じてほしい」
(尾内達也)

自己と非自己を探索し



その冒頭語だ、読んでみて、免疫の仕組みと脳探で、経路の動きは共通しているように思われる。心臓などの移植手術を受けて、拒絶反応を起こすことがある。免よちに、免疫は寛容ではなく、自分の(自己)と他人(非自己)がはつきりと分けられるんで興味深いです。また免疫と思考、免疫は何かを拒む働きを担っています。

人柄に、社長と、発揮し、16日、会議を察し、表情と態度を察し、見を受け止む。

